



宝福寺の方丈で座禅を組む子どもたち。心を落ち着かせることができたかな

100 歳おめでとうございます

茅原英さん満 100 歳

8 月 1 日、茅原英さん（^{ひで}泉）が満 100 歳を迎え、市や県からお祝いの記念品が贈られました。農業を営んでいた英さんは、若いころから手先がとても器用だったそうです。特に、田植えや稲刈りなどの農作業をてきぱきとこなし、周りの人たちを驚かせていたということ。また、無口で辛抱強い性格で、働くことが大好きだったということです。長寿の秘訣は、体をよく動かして、よく働くこと。今は、食事の時間をとても楽しみにしているそうです。



100 歳のお祝いを受ける茅原英さん

古代の生活跡に興味津々

広畑遺跡の現地説明会



炭窯の説明を聞く参加者

7 月 30 日、昭和中学校の体育館の建て替え場所で行われていた発掘調査（^{ひろばたけ}広畑遺跡）の現地説明会が開かれました。この遺跡からは、四角い柱穴や炭窯、溝、^{ゆうやく}釉薬の塗られた土器など、弥生時代から鎌倉時代にかけてのものが出土しています。説明会には、地元の人や歴史ファンなど約 150 人が参加。「約 2000 年前からこの地に人が住んでいたことや、役所的な施設の跡である可能性のあることが分かりました」。発掘を担当した市教育委員会の職員のこの説明に、参加者は興味深げに聞き入っていました。今回の発掘の成果は、この地域の古代から中世までを知るうえでの貴重な資料となりました。

雪舟に思いをさせ、お寺体験

雪舟さんってどんな人

8 月 3 日、雪舟没後 500 年を顕彰する事業の一つ、「雪舟さんってどんな人」が宝福寺で開かれました。これは、雪舟が幼少時に修行したとされる宝福寺で、いろいろな体験をして、雪舟に思いをさせてみようという企画されたもの。小学生約 30 人が参加しました。普段は入ることのできない方丈で、雪舟さんのお話や座禅、お茶の作法、絵を描くといった多彩なメニューを体験。昼食も茶めしと汁、漬物という精進料理を味わいました。絵を描く体験では、「心を込めて一生懸命描くことが大切です」と、講師の先生から指導を受けた後、それぞれお気に入りの場所でスケッチ。「涙でネズミの絵を描いた逸話がある」と紹介された雪舟にあやかり、ネズミを描く子どももいました。楽しく過ごした夏の一日の思い出とともに、子どもたちの記憶には、雪舟の偉大さが残ったことでしょう。



仏殿の丸い格子窓を描いている子どもたち

2000 人が練り歩く

雪舟フェスタ

8 月 5 日、中央文化筋一帯で総社市民まつり・雪舟フェスタが開かれ、大いににぎわいました。午後 6 時すぎ総おどりがスタート。「総社音頭」、「総社小唄」に合わせ約 2000 人のおどり連が中央文化筋を練り歩きました。おどり連のなかには、雪舟没後 500 年にちなみ小坊主の衣装で踊る子どもたちもいて、注目を集めていました。そして、クライマックスに突入。カミガツジプラザで、備中温羅太鼓のええとこ囃しの演奏がはじまると、まつりは最高潮に達しました。



中央文化筋を練り歩くおどり連

結構なお手前でした

小学生はじめての茶道教室

7 月 29 日・30 日の両日、中央公民館で小学生はじめての茶道教室が開かれました。この教室には 16 人の小学生が参加。座り方から始まり、立ち方、お菓子のいただき方、お茶の飲み方と点て方などを一つひとつ丁寧に参加者は教わっていました。ぎこちない動きで、神妙な面持ちでしたが、貴重な体験になったことでしょう。



お茶を点てる小学生